

azbil グループ

SDGs サプライチェーン活動報告書 2022 年度

2023 年 8 月発行

はじめに

azbil グループは企業理念に基づき、事業を通じて[持続可能な社会の実現と地球環境の保全に積極的な取組み](#)を進めてきており、日本はもちろんのこと世界的な取組みである「持続可能な開発目標（SDGs）」を含めた取組みを行っています。

特に気候変動への対応と人権尊重についての対応は社会から求められている大変重要な課題との認識に基づき、脱炭素化等に向けた取組みと同時に人権デューデリジェンスについて、azbil ではグループ一体となって取組みを進めています。

気候変動への対応と人権尊重についての対応を含む SDGs の取組みは、azbil グループだけでなくサプライチェーン全体で活動することでより大きな成果を上げられるものが大半であることを鑑み、[調達活動においては お取引先様と長期にわたる信頼関係を築き、azbil グループ・お取引先様双方の付加価値向上をはかる](#)ことを基本に、社会から高まる要望を受け止め、より積極的な社会的責任を果たすべく、サプライチェーンの取組みを強化します。

目次

1.本報告書の概要と構成	P.4
2.azbil グループ SDGs サプライチェーンの位置づけ	P.6
3.azbil グループ SDGs サプライチェーンの枠組み	
3-1. 目標達成に向けた枠組み	P.7
3-2. 対象領域	P.8
3-3. 推進体制	P.9
3-4. お取引先様への働きかけ	P.10
3-5. 評価	P.11
3-6. お取引先様対象範囲	P.12
4.2022 年度取組み実績	
4-1. azbil グループ各社での CSR 調達ガイドライン説明会の実施	P.13
4-2. お取引様への自己評価アンケート結果のフィードバック	P.16
4-3. 人権デューデリジェンス	P.17
4-4. CO2 排出量削減	P.19
4-5. azbil グループ購買基本方針 改定	P.20
4-6. お取引様への自己評価アンケート実施	P.21
4-7. 社外開示情報	P.24
5.azbil グループ 総合評価	P.25
6.2022 年度活動を通じての振り返りと今後の課題	P.26

1. 本報告書の概要と構成

2021 年度は、SDGs サプライチェーン活動の実質的な初年度ということもあり、2030 年までの活動の枠組みを規定するとともに、根幹となる考え方を示すものとして、azbil グループ購買基本方針を改定し、CSR 調達ガイドラインを作成、お取引先様にも展開しました。

2022 年度は、特にお取引先様への働きかけの観点で一段進め、以下のような活動を実施しました。

- ・ 2021 年度施策を受けて、お取引先の対象範囲を azbil から azbil グループへのお取引先様へ拡大しました。
→ azbil グループお取引先様への購買基本方針及び、CSR 調達ガイドラインの説明を実施しました。
- ・ お取引先様への働きかけを進めていくにあたり、社会要請の強さや 2021 年度のアンケート結果をふまえ、お取引先様に強化していただきたいテーマを、重点取組項目として設定しました。

重点テーマ：

環境面：CO₂ 排出量削減

社会面：人権デューデリジェンス

この2テーマについては、2021 年度よりもう一段踏み込んだ現状調査と改善要請、お取引先様個社へのヒアリングも実施しました。

また、継続的な取り組みを進めていくために、SDGs 評価については azbil グループ自身の評価とお取引先様に対する評価を毎年実施し、お取引先様には強み弱みのフィードバックを行うなど、改善に向けて P D C A を回す運用を定着させています。評価点は、環境、社会面とも 2022 年度は 2021 年度よりもアップしました。

【2021 年度 実施事項】お取引先様への啓蒙・動機づけ

■ azbil グループでの取組み基盤づくり

- ・ azbil グループ購買次基本方針改定
- ・ CSR 調達ガイドラインの作成
- ・ グループ各社で推進体制整備

■ お取引先様へのアクション

[azbil]

- ・ CSR 調達ガイドライン説明会の実施
- ・ お取引先様自己評価アンケート
実施と回答結果の分析

[azbil グループ各社]

- ・ お取引先様自己評価アンケート
実施と回答結果の分析



【2022 年度 実施事項】お取引先様へのアクション 具現化

■ azbil グループでの取組み基盤づくり

- ・ 重点取組みテーマ設定
(人権デューデリジェンス、CO2 排出量削減)
- ・ お取引先様への改善要請準備
2021 年度自己評価アンケートの分析からお取引先様
個社ごとに弱いテーマを特定

■ お取引先様へのアクション

[azbil]

- ・ 人権デューデリジェンス
人権デューデリジェンス項目を重要性に応じて第 1、2 優先順位に
層別し、第 1 優先順位項目について取組み実施
- ・ CO2 排出量削減
排出量と取組みレベルの現状把握
- ・ 2021 年度アンケートのフィードバック
- ・ お取引先様自己評価アンケート

[azbil グループ各社]

- ・ CSR 調達ガイドライン説明会の実施
- ・ お取引先様自己評価アンケート



【2023 年度 計画】お取引先様へのアクション 深耕・拡大

■ azbil グループでの取組み基盤づくり

- ・ azbil にて、グループ海外販社への展開シナリオ作り
- ・ グループ各社で、人権デューデリジェンス、CO2 排出量
削減推進体制の整備

■ お取引先様へのアクション

[azbil]

- ・ お取引先様個社ヒアリング
- ・ 人権デューデリジェンス
第 2 優先順位人権項目について、取組み実施
- ・ CO2 排出量削減
・ 成功事例となりそうなお取引先様に個別アプローチ

[azbil グループ各社]

- ・ 人権デューデリジェンス
- ・ CO2 排出量削減
- ・ グループ海外販社での CSR 水準向上施策と SDG s 活動

2022 年度 azbil 施策と同じ内容

※以下は、毎年 azbil、 azbil グループ各社で継続

- ・ 前年アンケートのフィードバック
- ・ お取引先様自己評価アンケート

2. azbilグループ SDGs サプライチェーンの位置づけ

azbilグループ SDGs 目標 2020年3月制定

azbilグループは、SDGs達成に貢献するため、4つのSDGs基本目標とターゲットを定めました。事業、企業活動全体で取組みを進めます。SDGsサプライチェーンの活動は、4つの活動のうちの1つに該当します。

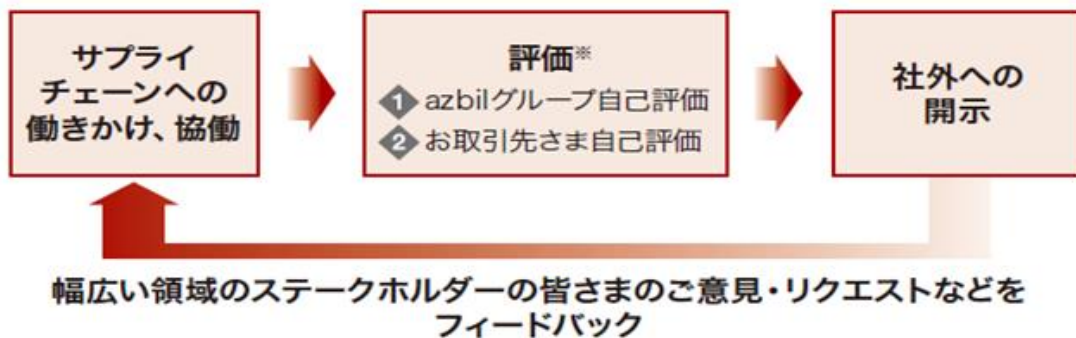


3. azbil グループ SDGs サプライチェーンの枠組み

3-1. 目標達成に向けた枠組み

■ サプライチェーンのCSR活動を評価するazbilグループのPDCAサイクル

お取引先さまとともに、SDGsを共通目的として連携し、
サプライチェーンにおけるCSRの価値共有を実現。



※：

①azbil グループ自己評価

『サプライチェーンへの働きかけ』について、4つの視点（①方針・戦略 ②体制・仕組み ③取組み施策 ④有効性）で、azbil グループでの独自評価基準に基づき、自己評価を実施します。

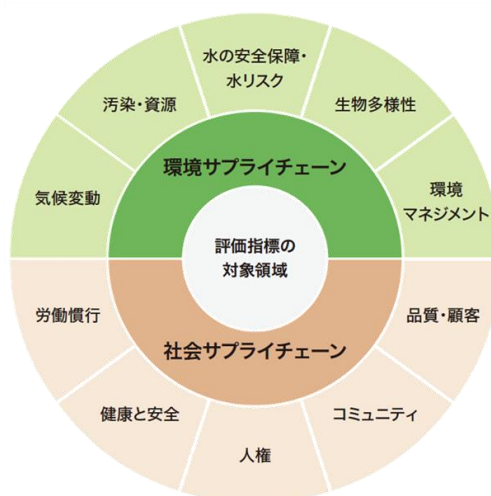
②お取引先様自己評価

グローバル・コンパクトをベースにしたアンケートにより、お取引先様自身の活動を自己評価していただきます。

3-2. 対象領域

SDGs サプライチェーンで取り組むべき領域を設定し、この領域を対象として、azbil グループの取組み体制整備やお取引先様への働きかけ、azbil グループおよびお取引先様の取組み評価、等を行います。

- 客観性を確保し、社外からも評価・確認しやすいように、対象領域を設定。下表の中分類 10 項目を「対象領域」と呼びます。
- 大中分類に紐付ける形で、小分類に azbil グループの取組み施策を配置しました。



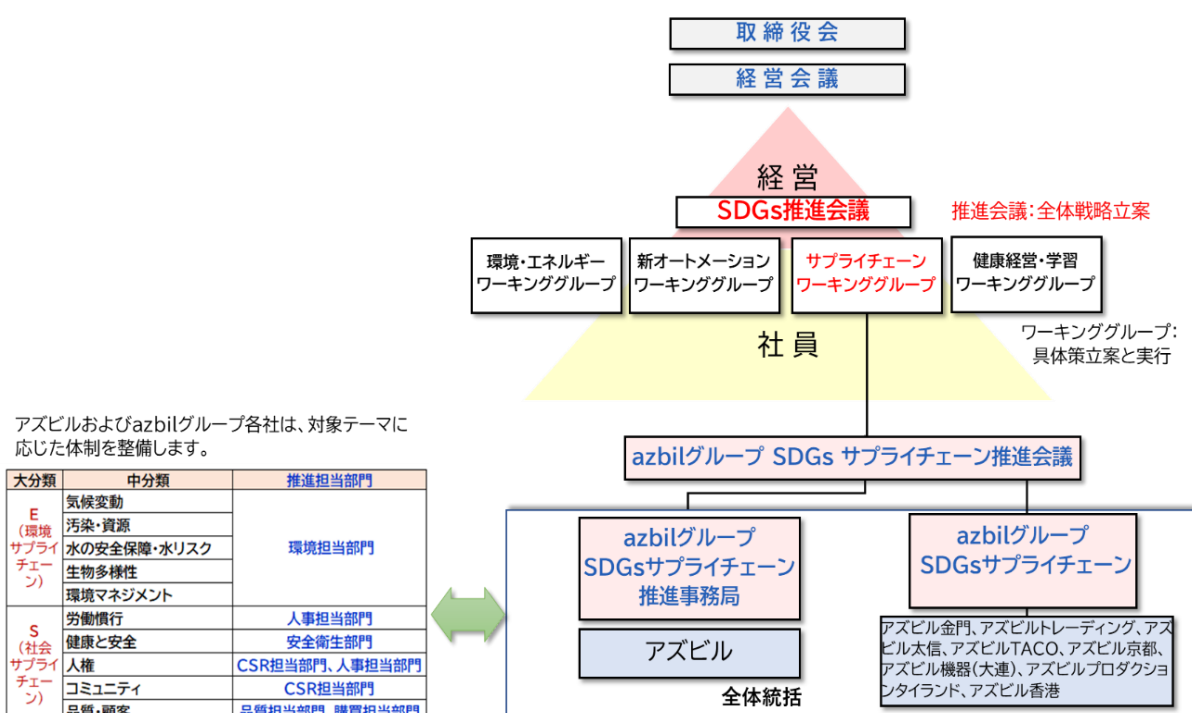
SDGs サプライチェーンで取り組むべき領域

大分類	中分類	小分類
E (環境サプライチェーン)	気候変動 (GHG、エネルギー)	・ CO2/GHG排出を含む気候変動課題への取組み
	汚染・資源 (大気、排水、有害廃棄物、廃棄物削減、原材料等)	・ グリーン調達
		・ 製品含有化学物質管理
		・ 資源利用の削減 ・ 産業廃棄物の削減 ・ 資源再利用 ・ 再生エネルギー利用の促進
	水の安全保障・水リスク	・ 水使用の削減、排水削減
	生物多様性	・ 生物多様性保全
S (社会サプライチェーン)	環境マネジメント	・ ISO14001に準拠した環境管理活動
	労働慣行	・ 児童労働、強制労働の廃止、過重労働時間の削減
		・ 差別の禁止、機会均等
		・ ダイバーシティ推進
	健康と安全	・ 健康と安全管理 ・ 働き方改革、ワークライフバランス
	人権	・ 基本的人権の尊重 (反社会的勢力の排除、紛争鉱物対応を含む)
	コミュニティ (地域社会)	・ 地域振興、社会貢献につながる活動
	品質・顧客	・ 公正な商取引の遵守 (法令遵守を含む)
		・ 品質マネジメント

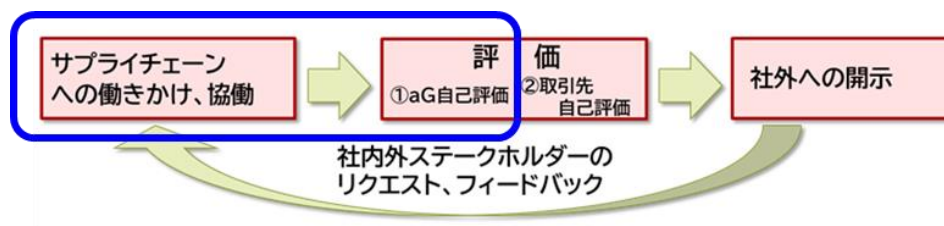
3-3. 推進体制

azbil グループ SDGs サプライチェーンは、azbil グループ生産機能／購買機能担当役員を責任者とし、azbil がグループ全体を統括する形態で運営します。

参画する azbil グループ各社は、対象領域においてお取引先様への働きかけや施策の展開ができる体制を、各社の SDGs 責任者を中心に、関連機能部門と連携して、適切な形で整備します。



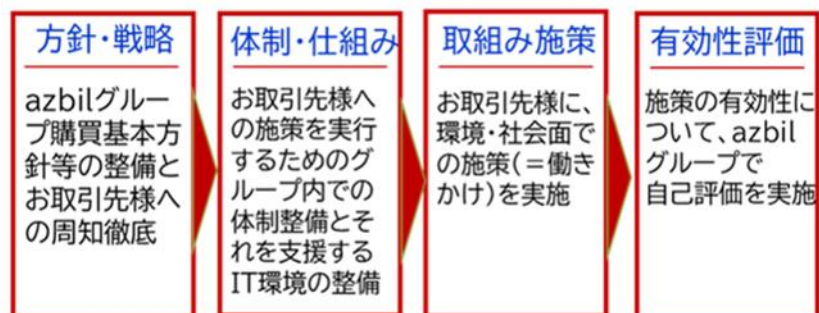
3-4. お取引先様への働きかけ



※図中 aGは、azbilグループの略称を表します。

以下の 4 つのアクションにそった取組みを、お取引先様に展開することで、サプライチェーン全体を環境／社会面で確実に改善していきます。

『 サプライチェーンへの働きかけ』



※有効性評価の妥当性を検証する意味も含め、お取引先様にも自己評価を実施依頼。

【方針・戦略】

azbil グループとしてのサプライチェーン管理方針(目標、計画を含む)を、azbil グループ購買基本方針として外部開示するとともに、お取引先様にも周知徹底を促します。

【体制・仕組み】

azbil グループ各社で施策を推進する体制や、関係各社での情報共有の仕組みを整備します。

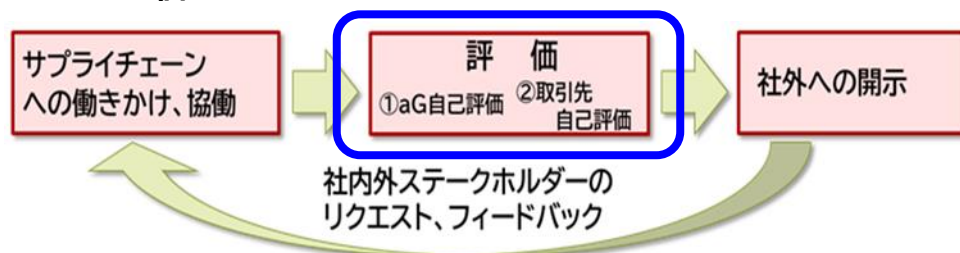
【取組み施策】

azbil グループ各社で、上記方針に基づき、体制・仕組みを活用して自社お取引様に対し働きかけ(=取組み施策)を実施します。

【有効性評価】

azbil グループ各社が、自社の取組みを評価します。

3-5. 評価



SDGs サプライチェーン取組みの評価として、 azbil グループは『サプライチェーンへの働きかけ』について、4つの視点 で自己評価を実施します。これに、お取引先様自己評価 (*)を加えた計 5 項目で総合評価を行います。

⇒ azbil グループの取組みと、お取引先様の強み弱みが見える化し、翌年度施策立案へとつなげます。

*：お取引先様にも、対象領域 22 小分類ごとに理解度や社内推進体制、取組み状況等の確認をするアンケートを実施します。azbil グループの取組みが有効に機能すれば、経年ではお取引先様での自己評価も向上してくる との仮説に基づき、azbil グループの取組み有効性の検証の意味も含め、お取引先様自己評価結果を評価対象に加えています。

大分類	中分類	azbilグループとしてのサプライチェーンへの働きかけの評価				取引先実態把握
		azbilグループ自己評価				お取引先様自己評価
		方針・戦略 (目標、計画含む)	体制・仕組み	取組み	有効性 (パフォーマンス)	
E (環境サプライチェーン)	気候変動 (GHG、エネルギー)					
	汚染・資源 (大気、排水、有害廃棄物、廃棄物削減、原材料等)					
	水の安全保障・水リスク					
以下、省略						

- ・ 青四角一つずつ、10 点満点で評価します。
- ・ 2030 年までの評価がぶれないように、評価基準を設定しています。

3-6. お取引先様対象範囲の設定

azbil グループ全体ではお取引先様は 4000 社を超えていますので、スクリーニングを実施したうえで、SDGs 対象のお取引先様を選定しています。

具体的には、取引額（azbil グループでの購買高）の大きいお取引先様が、SDGs 施策が奏功した場合の azbil グループへのインパクト、またはリスクが顕在化した場合の azbil グループへの負のインパクトが大きいとの仮説に基づき、取引額の大きいお取引先様から順に採用し、azbil グループ全体の取引額 80% をカバーするようにお取引先様を選定しています。これを重要お取引先様とみなし、SDGs 対象お取引先様として管理しています。

取引額は毎年増減があること、azbil グループの SDGs 取組に非協力的なお取引先様もあることから、1 年に 1 度必要に応じて対象お取引先様は見直ししています。2022 年度時点での対象お取引先様社数は以下のとおりです。

azbilグループ	全取引先社数	SDGs対象取引先 (重要取引先)社数
アズビル	2575	318
アズビル金門	267	77
アズビルトレーディング	817	37
アズビルTACO	300	53
アズビル太信	265	28
アズビル京都	4	4
アズビル機器(大連)	119	24
アズビルプロダクション タイランド	36	11
アズビル香港	50	10
合計	4433	562

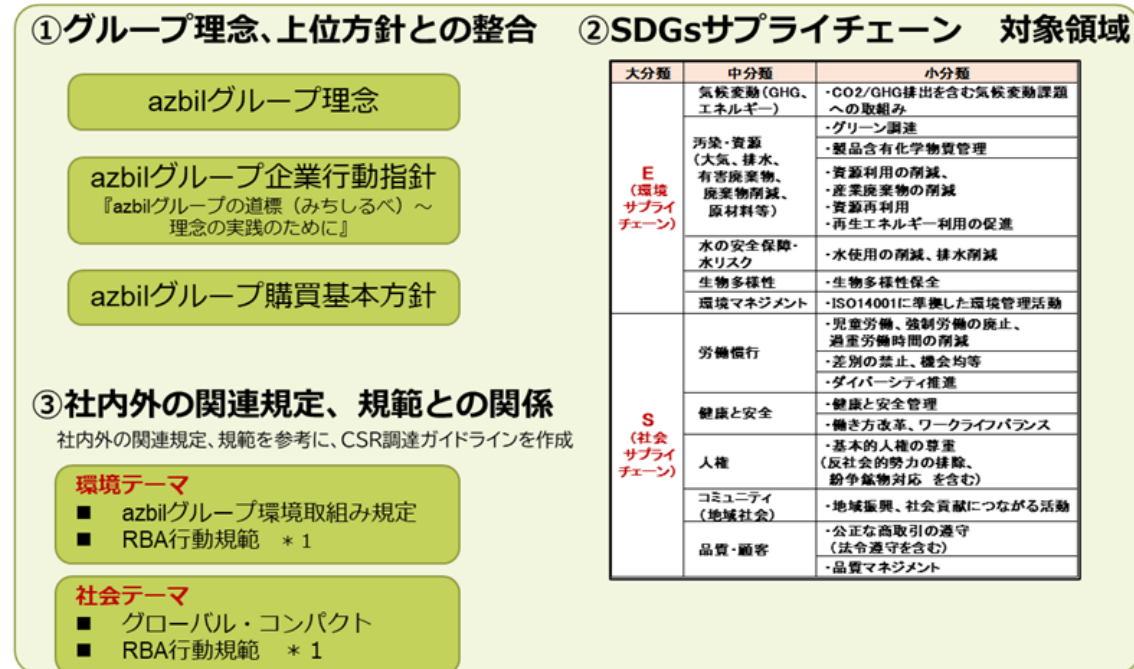
4. 2022 年度取組実績

4-1. azbil グループ各社での CSR 調達ガイドライン説明会の実施

CSR 調達ガイドラインとは

お取引先様に SDGs の必要性や考え方を認識していただくとともに、具体的に SDGs に取り組んでいただくために、azbil グループとしての理念や企業行動指針に示している基本的な考え方を踏まえ、サプライチェーンにおける CSR の広範な活動についての方向性、順守すべき事項等をまとめました。

★CSR 調達ガイドライン作成の位置づけと構成



*1: 電子機器関連産業のサプライチェーンのための環境・労働・倫理等の規範

CSR調達ガイドライン

CSR 調達ガイドライン URL 紹介

https://www.azbil.com/jp/corporate/procurement/policy/csr_guideline/pdf/azbilGroup_csr_procurement_guideline_03.pdf

【azbilグループ CSR調達ガイドライン 目次】

1. はじめに p3
2. azbilグループ企業理念 p4
3. azbilグループ行動指針 p4
4. azbilグループ購買基本方針 p5
5. CSR調達ガイドライン p6～11
 - ① 気候変動 (GHG、エネルギー)
 - ② 汚染・資源
(大気、排水、有害廃棄物、
廃棄物削減、原材料等)
 - ③ 水の安全保障・水リスク
 - ④ 生物多様性
 - ⑤ 環境マネジメント
 - ⑥ 労働慣行
 - ⑦ 健康と安全
 - ⑧ 人権
 - ⑨ コミュニティ (地域社会)
 - ⑩ 品質・顧客
6. 補足説明

■CSR調達ガイドライン



CSR 調達ガイドラインの位置づけ

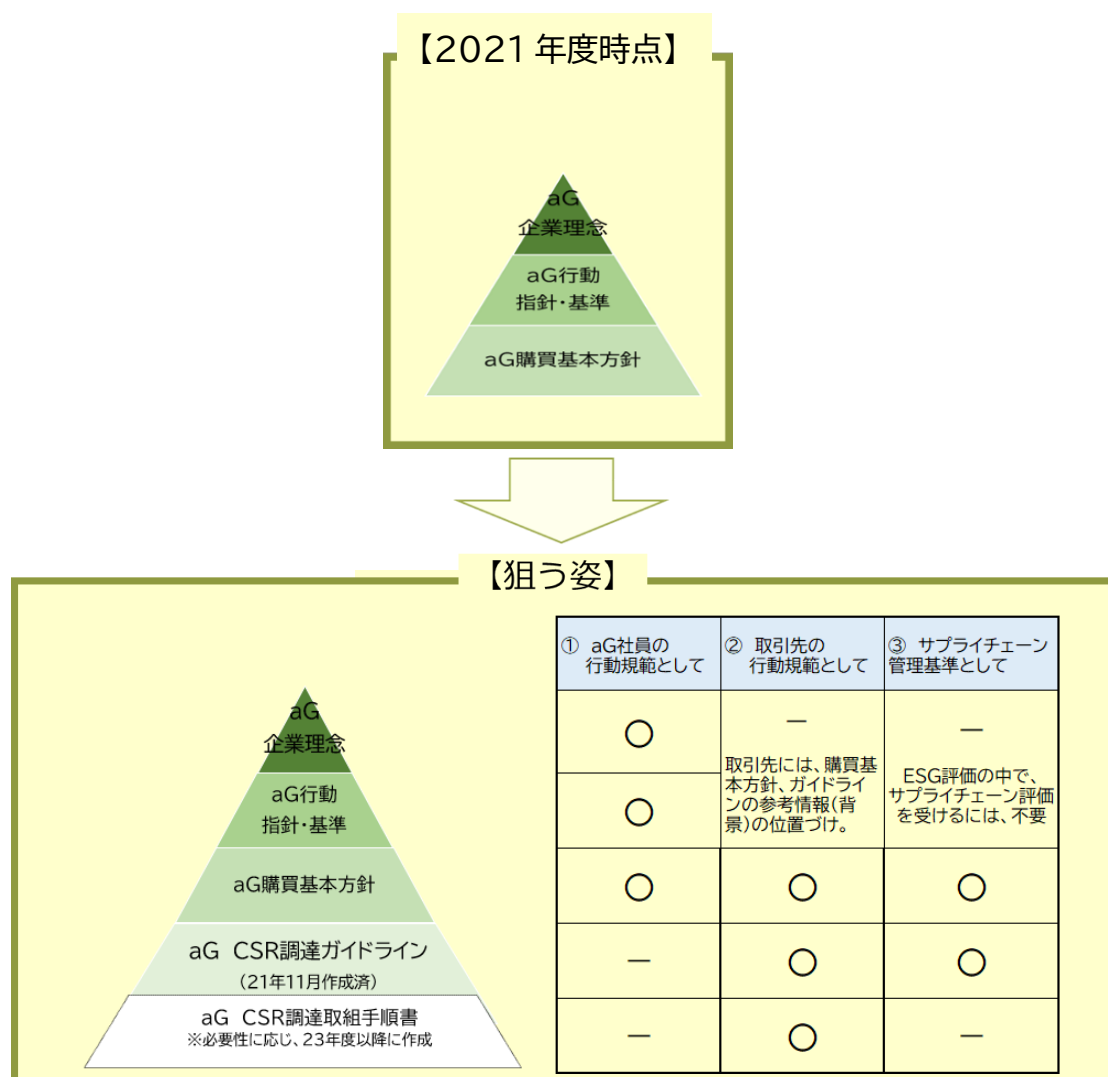
企業理念、企業行動指針／行動基準に基づき、購買分野においては、基本的な考え方を示した「azbil グループ購買基本方針」と、更に詳細の考え方や手順などは、CSR 調達ガイドライン（策定済）や手順書等に階層分けした体系で整備しています。

位置付け

購買基本方針：お取引先様との関係構築・購買業務を進める上でのポリシー（①②③）

CSR 調達ガイドライン：方針を実践するために取り組むべき事項（②③）

取組み手順書：（必要に応じて今後整備）



※図中 aG は、azbil グループの略称を表します。

【お取引先様への CSR 調達ガイドラインの説明会の実施】

・2021 年度は、azbil の主要お取引先様約 300 社に対し、お取引先様への SDGs 取組みの動機づけと、具体的な取組み事項を理解していただくために、azbil の SDGs 取組みや「CSR 調達ガイドライン」について説明会を回実施しました。

・2022 年度は、この経験知を活かし、更に効果を拡大するために、azbil グループ各社でのお取引先様にも同様の説明会を実施しました。 azbil グループ各社での実施状況は右上表の通りです。

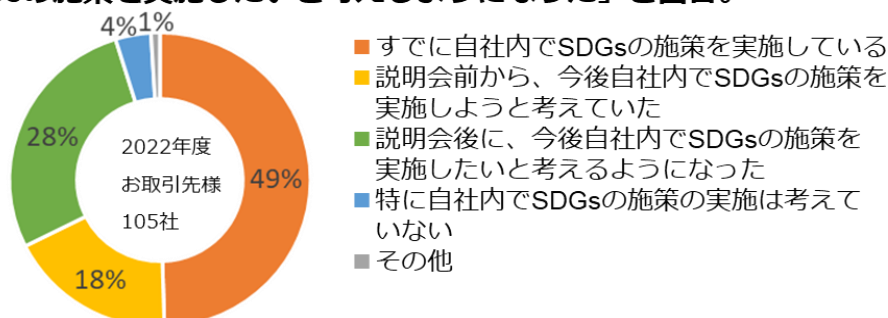
・2023 年度以降に azbil グループ海外販社でも同様に、 CSR 調達ガイドライン説明会を自社お取引先様に実施していく予定です。

アズビルグループ	CSR調達ガイドライン 説明会 参加社数
アズビル	276
アズビル金門	46
アズビルトレーディング	17
アズビル太信	28
アズビル京都	3
アズビル機器(大連)	24
アズビルプロダクション タイランド	11
アズビル香港	2
合計	407

【説明会実施後のアンケート集計結果】

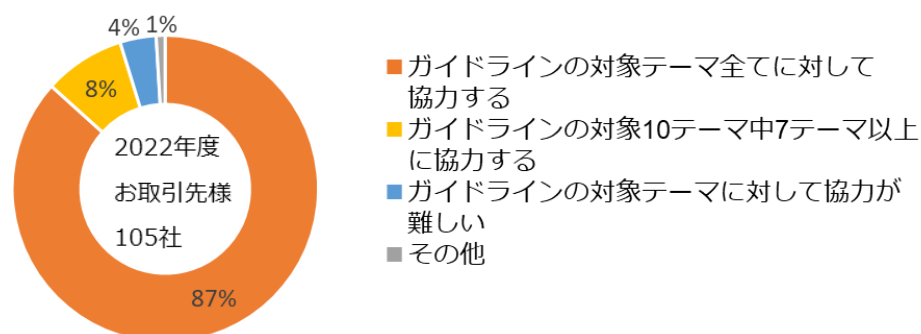
「お取引先様におけるSDGs施策の実施状況」

2022年度では、3割弱のお取引先様が「（説明会後に）今後自社内でSDGsの施策を実施したいと考えようになった」と回答。



「CSR調達ガイドラインへの協力」

8割以上のお取引先様が「ガイドラインに協力する」と回答。



4-2. お取引様への自己評価アンケート結果のフィードバック

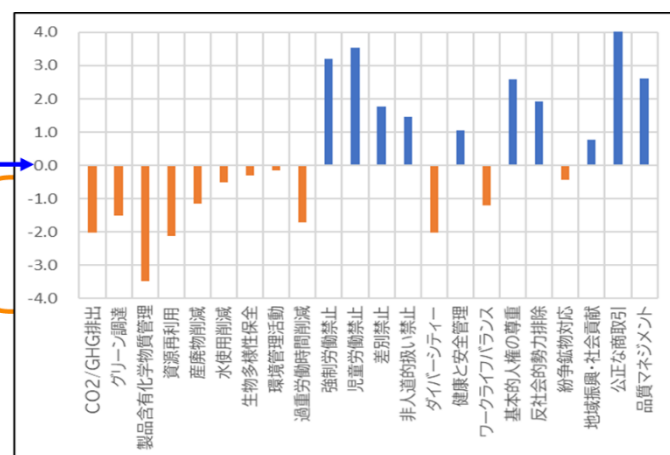
2021 年度のお取引先様自己評価アンケート回収結果を活用して、お取引先様個社ごとの自主的な改善をお願いしました。

具体的には、2021 年度の自己評価アンケート結果を使って、小分類22項目ごとに azbil のお取引先様の平均点との差を明示することで、自社の強み・弱みを認識していただき、特に弱みについて改善の取組みをお願いしました。

2022 年度のお取引先様自己評価アンケートの結果から、改善をお願いした小分類テーマは平均点が微増ながら向上しており、お取引先様へのフィードバックが有効であることを確認しました。

アズビルのお取引先様の平均点を0点とした。

オレンジ色部分は、お取引先様個社の得点がazbilグループのお取引先様の平均点を下回っている部分。
⇒この部分の小分類テーマの改善をお取引先様個社ごとにお願しました。

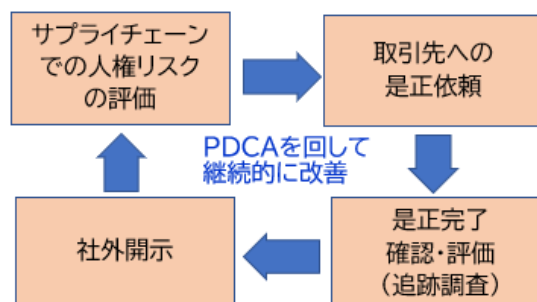


小分類22項目

4-3. 人権デューデリジェンス

“人権デューデリジェンス”とは

サプライチェーンにおける人権侵害に関するリスク評価を行い、発生している場合には速やかに是正に努める活動。(右図のPDCAを回す活動)



人権デューデリジェンスで対象とする「人権」範囲の決定

以下の観点で、多面的に検討しました。

- ①国連方針「ビジネスと人権に関する指導原則」
- ②法令遵守の必要性
- ③アズビル事業における影響評価
- ④先進他社事例で採用されているもの（下表参照）

人権課題 項目	製造業							
	← 電子機器関係 →							
	電子機器 A社	電子機器 B社	生活用品 C社	アパレル D社	食品 E社	食品 F社	自動車 G社	運輸 H社
アズビルでの当初選定								
児童労働の廃止	○	○	○	○	○	○	○	○
強制労働の廃止、	○	○	○	○	○	○	○	○
過重労働時間の削減				○	○	○	○	○
差別の禁止、機会均等	○	○	○	○	○	○	○	○
ダイバーシティ推進	○					○	○	
健康と安全管理	○	○	○	○	○	○		○
働き方改革、ワークライフバランス						○		
反社会的勢力の排除、				○				
紛争鉱物対応	○			○			○	
その他								
賃金(適正、未払い防止)			○		○	○	○	○
結社の自由と団体交渉権			○	○	○	○ (+労働基本権)	○	○
プライバシーに関する権利	○	○			○	○ 個人情報		
情報発信に関する差別的表現				○	○			
コミュニティへの負の影響			○※1		○			
移住労働・外国人労働者				○			○	○
人身売買								○
相談通報窓口	○救済へのアクセス			○				

人権デューデリジェンスでの対象人権項目として8つを選定し、重要性に応じて優先順位を、第1/第2と設定しました。

第1優先順位

児童労働の廃止
強制労働の廃止、
過重労働時間の削減
賃金(適正、未払い防止)
移住労働・外国人労働者

第2優先順位

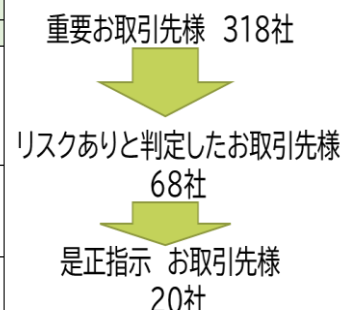
差別の禁止、機会均等
健康と安全管理
結社の自由と団体交渉権

上記は、お取引先様の従業員を対象にしているがそのチェック対象に、女性、子供、出稼ぎ労働者も包含しています。

【人権デューデリジェンス プロセス】

※対象取引先:azbilの重要取引先318社

リスク判定 ステップ	リスク評価方法	リスク社数	
		第1優先順位	第2優先順位
1次絞り込み	既存情報有効活用の観点から、2021お取引先様自己評価アンケートのうち、人権項目8個を内包する「労働慣行」「健康と安全」の回答結果から、潜在リスク取引先を抽出	147社	
2次絞り込み	人権項目に特化し具体的なリスク事象有無を確認するアンケートを作成し、取引先の回答結果から絞り込み	36社	32社
3次絞り込み	個社ごとに、リスク事象発生有無を多面的なヒアリングにより確認。	0社	20社



【主要な是正依頼内容】

法令遵守に限定せず、お取引先様従業員の人権尊重、企業の存続性の観点からアドバイスしています。

- ・（安全）衛生推進者（管理者）の選任義務について法令の周知と選任依頼
- ・緊急時の労災対応マニュアルの作成依頼（azbil の作成例を紹介）
- ・労災の類似災害防止対策の依頼と保護具着用の適正な管理を促す教育動画紹介

【成果】

人権侵害の有無をお取引先様に確認していくための手続き、人権に関する付帯的な情報（法令や社会動向等の知見）についてはかなり蓄積が進みました。azbilグループお取引先様への展開や更なるリスク対応水準の引上げに向けて、azbilグループマニュアルの整備を進め、迅速かつ効率的に人権デューデリジェンスの取り組みを進めます。

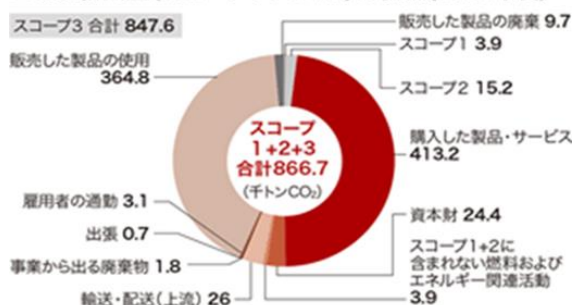
4-4. CO₂ 排出量削減

環境庁の排出係数と購買高をベースにした算出では、azbi I グループではスコープ 3、特にお取引先様からの製品・サービスの購入にまつわる CO₂ 排出量の比率が高い状況となっています（図 1）。

また、お取引先様の業種別に見ると図 2 にあるように、会社数ではサービス・役務系が多いことがわかり、また CO₂ 排出量で見るとほぼ 3 等分となっていることから 1 社あたりの CO₂ 排出量は商社と製造業が多いことがわかります。

【図 1】

■ CO₂ 排出量(スコープ 1+2+3)の状況(2021年度)



算定範囲

- ・スコープ1+2：アズビル株式会社、国内連結子会社および海外主要生産拠点
- ・スコープ3：アズビル株式会社および連結子会社

【図 2】

主要お取引先様約 300 社の業種別割合と CO₂ 排出量

業種割合(企業数)



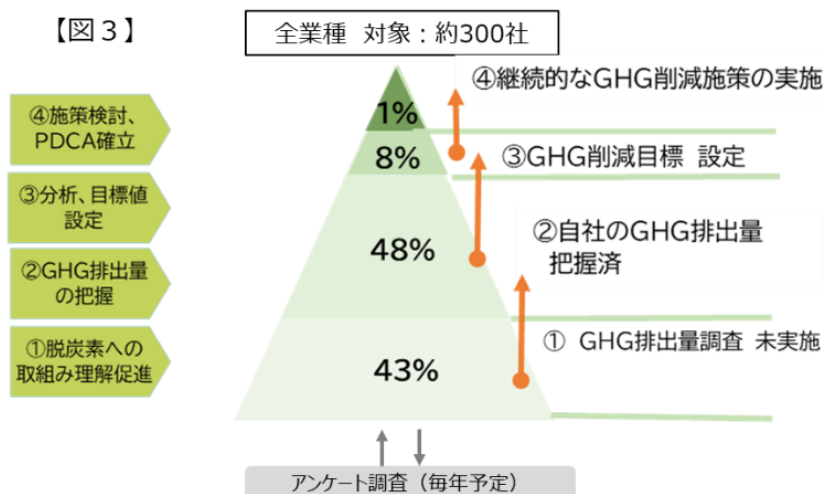
業種割合 (CO₂排出量)



更に、主要お取引先様約 300 社にお取引先様のスコープ 1, 2, 3 の実態把握をヒアリングシートにて実施しました。

これまでの各種アンケートでの情報収集結果も加味して取組みレベルに応じたグルーピングを行い、お取引先様を 4 段階に分けると図 3 のようなピラミッドの状況であることを確認しました。

【図 3】



現在は、各グループに対する働きかけや取組む方向性を決定、各グループのレベルアップを図るべく、お取引先様への個別アプローチを開始しています。

4-5. azbil グループ購買基本方針 改定

【改定の背景】

azbil グループは、SDGs など社内外の要請を整理し、先進他社事例も踏まえ、2022 年 6 月に「azbil グループ購買基本方針」を改定しました。

【改定にあたっての基本的な考え方】

- ・短期的な変化の影響を受けない基本的な考え方を中心に、社会の要請を意識して重要な項目を azbil グループ購買基本方針追加しました。
- ・SDGs の取組みとしてお取引先様に取り組んでいただきたい事項は、CSR 調達ガイドラインに織り込み、お取引先様に展開、周知徹底します。

※azbil グループ購買基本方針と CSR 調達ガイドラインの位置づけは 14 ページを参照ください。

【改定のポイント】

- ・サプライチェーン管理方針として追記すべき、気候変動対応、差別の禁止、過度な時間外労働・強制労働の排除、節水などの事項を追記。
- ・当社が 2021 年 4 月に署名した国連グローバル・コンパクトにおいて重視されている人権の尊重についての事項を追記。
- ・azbil グループ SDGs 目標の一つ「全ての新製品を 100%リサイクル可能な設計とする」に関連する環境配慮設計について追記。
- ・環境保護目標の一つである生物多様性保全を実現するために重要な手段となる製品含有化学物質管理について追記。
- ・お取引先様の選定および継続契約時に反社会的勢力との関与遮断を、今まで以上に強力に進める必要があることから、法令遵守の確認強化について追記。

4-6. お取引様への自己評価アンケート 実施

お取引先様個社ごとの環境／社会の両面での取組み状況を客観的に把握することと、経年でのその変化、進展具合を把握することを目的に、azbil グループではグローバル・コンパクトの考え方をベースとしたお取引先様自己評価アンケートを毎年実施しています。2022 年度のアンケート集計結果は以降のようになっています。

■ azbil グループ 国内 6 社 お取引先様自己評価アンケート実施社数

数字：お取引先様 社数

azbilグループ	アンケート依頼	アンケート回収	お取引先様 業種・業態			
			製造	商社	工事・役務	エンジニアリング・ソフト開発
アズビル	318	270	82	43	136	9
アズビル金門	4	3	2	0	1	0
アズビルトレーディング	37	30	22	7	1	0
アズビル太信	28	24	11	13	0	0
アズビルTACO	53	45	36	8	1	0
アズビル京都	4	3	0	3	0	0
合計	444	375	153	74	139	9

■ azbil グループ 海外 3 社 お取引先様自己評価アンケート実施社数

数字：お取引先様 社数

azbilグループ	アンケート依頼	アンケート回収	お取引先様 業種・業態			
			製造	商社	工事・役務	エンジニアリング・ソフト開発
アズビル機器(大連)	24	24	17	7	0	0
アズビルプロダクション タイランド	11	11	6	5	0	0
アズビル香港	11	8	6	2	0	0
合計	46	43	29	14	0	0

■ azbilグループ国内・海外 お取引先様自己評価集計結果
10 対象領域（中分類）別

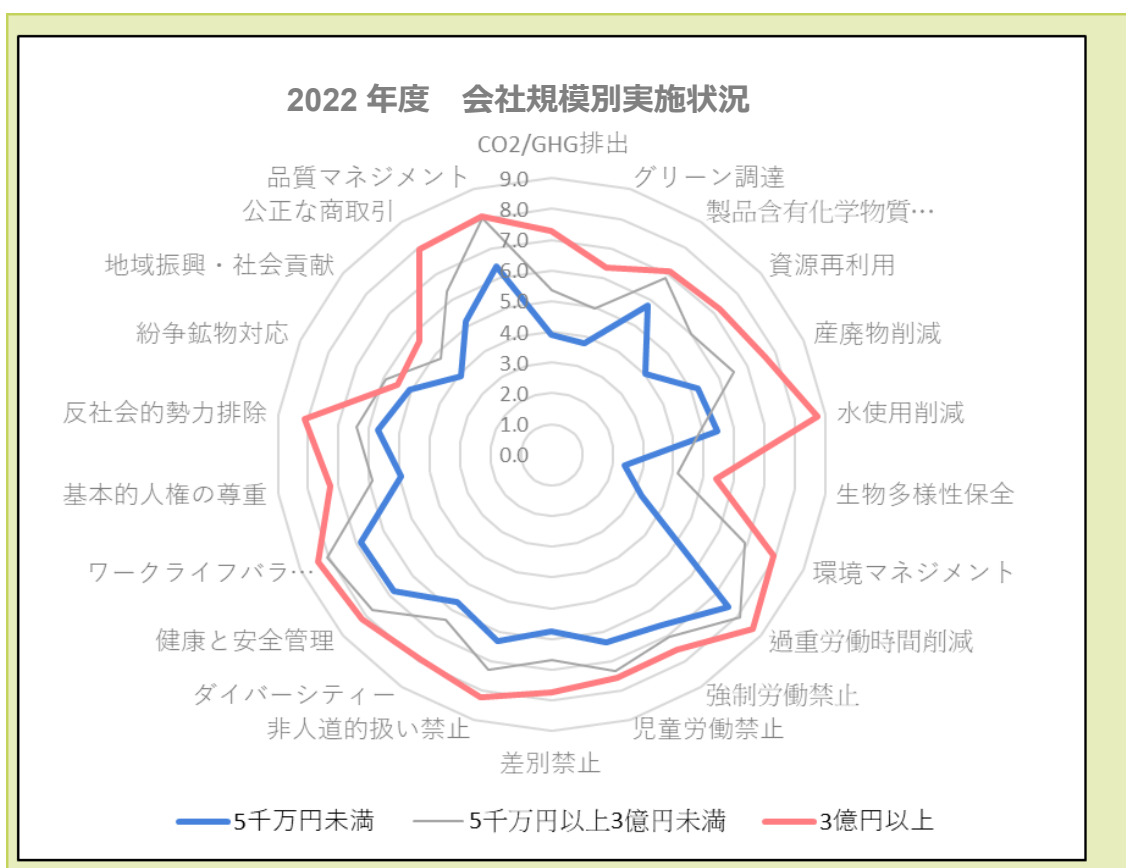
- 全体的に 2021 年度から微増となっており、azbil グループからの働きかけがお取引様の取組みに貢献していると思われます。
- 業態・業種別も 2021 年度と同じ傾向を示しております（製造業は他の業種・業態より評価点が高いが、工事・役務は評価点が低くなっています）。



※環境サプライチェーン「水の安全保障・水リスク」において製造以外は非該当のため、表示上 0 点となります。

■ 自己評価アンケートにおける会社規模（資本金）別の比較

- 資本金による会社規模と取組み状況では、会社規模（資本金）が大きいほど取組みが進んでいる傾向を示しています。
- しかし、下記グラフには表示しておりませんが 2021 年度からの進捗を考慮しますと、小規模の会社の方が 2021 年度より取組みが進んでいることが顕著に伺えます。azbil グループでのガイドライン説明会やフィードバックレポートの発行によって、小規模の会社でも動機付けが進み、取組みの底上げが実施されていると思われます。



4-7. 社外開示情報

【社外開示の位置づけ】

azbil グループの SDGs サプライチェーンに関する活動実績をまとめ社外に開示することにより、株主、機関投資家、お取引先様等から広くご意見・ご要望を集めることで、今後の活動に反映することを目的としています。



【2022 年度に開示した情報】

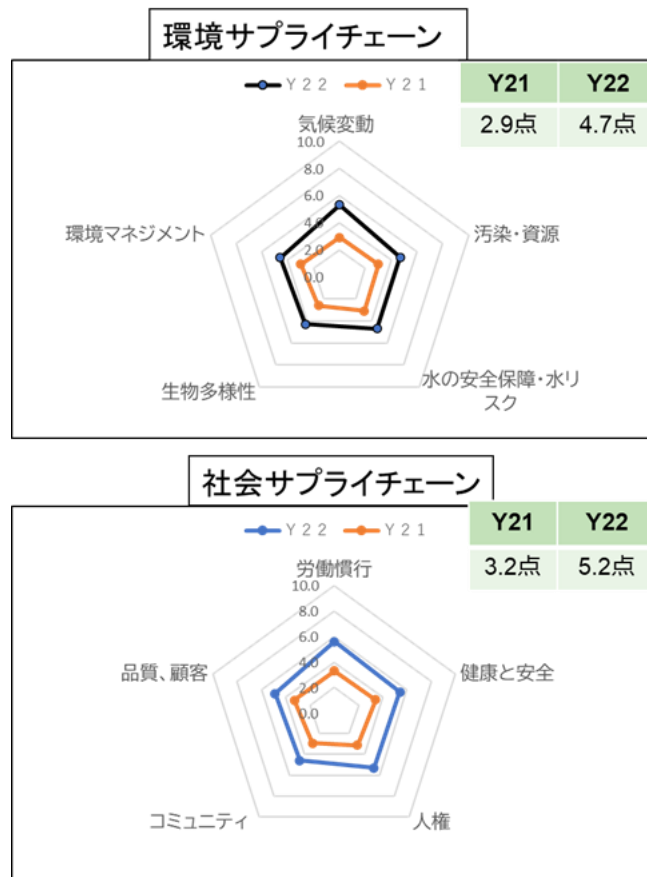
上記の目的により、本報告資料以外にも情報を社外に開示しています。

社外への開示情報	ドキュメント内容と位置づけ	開示対象HP・時期
①aG購買基本方針	SDGs動向や社内外の要請を整理、国連グローバルコンパクト方針も踏まえ、改定を実施。Azbilグループの購買行動規範と、サプライチェーン管理基準の双方の位置づけを併せ持つ。	22年6月に社外ホームページ(以下、HPと略)上に開示、23年1月改定後に再度開示済。 ・日本語版HP ・英語版HP ・中国語版HP https://www.azbil.com/jp/corporate/procurement/policy/index.html (日本語版)
②CSR調達ガイドライン	azbilグループ理念や企業行動指針にある基本的な考え方を踏まえ、取引先に具体的にSDGsに取り組んでいただく事項等をまとめた。	22年1月に日本語版HP、22年9月に英語版HPに開示済。 https://www.azbil.com/jp/corporate/procurement/policy/csr_guideline/index.html (日本語版)
③サプライチェーン活動報告書	アズビルグループとして2030年までのSDGsサプライチェーンに対する取組みの枠組みと、年度ごとの活動実績、自己評価結果等を報告書としてまとめた。	21年度版: 22年6月に日本語版、英語版HPに開示済。 22年度版:本報告資料。 ※azbilレポートY23版からもリファレンスあり。 ※サプライチェーン活動報告書は今後も1年間の活動実績をまとめ、毎年公開予定。 https://www.azbil.com/jp/corporate/procurement/supplychain-annualreport/index.html (日本語版)
④お取引先様とのコミュニケーション	お取引先様新規採用時の評価内容、お取引開始後のお取引先様とのエンゲージメントなど、お取引先様との関わりをCSR以外の視点も含め、広く紹介。	23年1月に最新情報にHPを更新。 https://www.azbil.com/jp/corporate/procurement/policy/communication.html (日本語版)

5. azbil グループ 総合評価

azbil グループ自己評価基準に基づき、対象テーマ毎に評価を実施しました。具体的には、環境／社会各5の計10の対象領域(中分類)について、azbil グループとしてのサプライチェーンへの働きかけ(①方針・戦略 ②体制・仕組み ③取組み施策 ④有効性評価)と、⑤お取引先様自己評価結果の5つの評価項目での単純平均点を総合評価点とし、10点満点で評価します。

2022 年度取組施策が奏功し、環境／社会サプライチェーン各項目ともに、総じて2点程度上昇しています。



■ 評価点アップの主要因

- ・ azbil グループ購買基本方針改定： 10 対象領域全ての方針・戦略として加点しています。
- ・ azbil／azbil グループ各社でのお取引先様へのフィードバック(改善要請)、ガイドライン説明会：
10 対象領域全ての取組み施策として加点しています。
- ・ CO2 排出量削減、人権デューデリジェンスの実施：
気候変動、労働慣行、健康と安全の3項目の取組み施策として加点しています。

6. 2022 年度 活動を通じての振り返りと今後の課題

■ 2022 年度 活動を通じて評価できる点

- ✓ 2022 年度は、azbil SDGs サプライチェーンの枠組みに則り、期首に設定した計画をほぼ実施することが出来ました。
- ✓ 2021 年度に実施したお取引先様への啓蒙活動の下地を活かし、2022 年度は社会要請の高い人権デューデリジェンスや CO2 排出量削減といったテーマも実施しています。特に、人権デューデリジェンスでは 20 社のお取引先様に是正依頼をお願いするなど、具体的な成果も出すこともできました。
- ✓ azbil だけでなく、グループ会社からもお取引先様に CSR 調達ガイドライン説明会を実施するなど、活動はより広範に進化しています。

■ 今後の課題

- 2021、2022 年度は多数のお取引先様を網羅的にカバーする取組み施策を優先して実施してまいりました。総合的な成果を上げる点では有効でしたが、その一方で実態やニーズの異なるお取引先様個社への響き方が相当異なる部分もありました。この点をふまえ、23 年度以降も人権デューデリジェンス、CO2 排出量削減を軸とした活動としますが、[お取引先様個社への訪問やヒアリングを拡充し、お取引先様の実態把握や意向を取込むことでコンセンサスを形成したうえで、取組み施策を実施](#)したいと考えます。
- それにより、SDGs 上キーとなるお取引先様を数社選定し、お取引先様と協業することで[成功事例を作ることを検討](#)します。その後、成功事例を他のお取引先様に水平展開することを志向します。
- いくつかの国・地域においては、“人権”に関してはアクションがとりにくいことも判明しましたが、こういった地域においても状況や特性を見極めたうえで、可能な分野から取組施策を実施していく所存です。
- 2023 年度以降は、azbil グループの海外販売会社にも優先順位を付けたうえで、SDGs サプライチェーン活動を展開します。

azbil